

## しゅうまつ [週末里親]

児童養護施設等で生活する子どもを週末や夏休みなどに家庭で過ごさせてくれる方。



—問い合わせ先—

(社団法人) 家庭養護促進協会  
TEL 06-6762-5239  
FAX 06-6762-8597

## 里親会ってなあに??

里親会とは、里親とその関係者が作り上げる団体で、受託児童の養育の向上を目的として様々な研修や、子どもと一緒に参加できる行事などを行っています。

大阪市には「大阪市里親会」があり経験豊かな先輩里親との交流も行っています。

## 里親の養育 Q&A



**Q1** 実子がいても、または配偶者がいなくても大丈夫でしょうか

**A** よく話し合って家族全員の理解が得られればOKです。また、単身の家庭や婚姻していない場合でも、一定の条件を満たすことによって里親になることはできます。

**Q2** 共働き世帯なので、子どもの年齢などの希望はだせますか?

**A** 出せます。「共働きなので小学生より大きな子どもを希望します。」という人もいます。子どものための制度なので、子どもの良き応援者という気持ちでされてみては。

## 出前講座いたします!!



大阪市内であればどこでもみなさまのもとに出向いて講座をいたします。

講座の所要時間は30分から2時間程度でご相談に応じます。

お問い合わせは  
大阪市こども相談センターまで。

## 大阪市こども相談センター

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5  
TEL 06-4301-3100  
FAX 06-6944-2061

- ・JR環状線「森ノ宮」徒歩5分
- ・大阪市営地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線「森ノ宮」②⑦A・B出口 徒歩3分



# ざとあや って なあに?



## さとおやとは？



子どもは安定した環境の中、親の支えを得ながら、心身共に成長していきます。しかし現実には、家庭のさまざまな事情で親と離れて暮らさなければならない子どもが数多くいます。

こうした子どもたちを、深い愛情と理解をもってご家庭で育ててくださる方を「里親」といいます。

### よういく [養育里親]

事情があって家庭で育てられない子どもを一定期間、家庭で育ててくださる方

※事前研修が必要



### ようし [養子里親]

親が養育できない子どもを養子縁組を前提として育ててくださる方

### しんぞく [親族里親]

親が行方不明・死亡・拘禁・長期入院などの理由で子どもを養育する人がいない場合、扶養義務者及びその配偶者である親族で育ててくださる方

### せんもん [専門里親]

虐待などで心身共に傷ついた子どもに対し、経験と専門知識を生かし、家庭で養育してくださる方（一定の要件と専門里親養成研修が必要）

◆里親委託中は里親手当・子どもの養育費が支払われます。医療費は公費で負担されます。里親の種類によって手続きや手当等異なります。

## 里親になる手続き

里親希望者

- ・申し込み
- ・面接・家庭訪問・研修など

子ども相談センター

社会福祉審議会

市長

・認定

登録里親



保護を必要とする子ども

調査・判定など

里親委託が  
適当との処遇方針

・親権者の同意

子どもとのマッチング

里親委託

里親としての活動を当センターが支援

＼ ご存じですか？ ／

# 週末里親

— Weekend family —



週末里親とは、児童福祉施設で生活している  
親との面会や帰宅の機会の少ない子どもを月1～2回、  
家庭に迎え入れるボランティアです。

問い合わせ先

公益社団法人 家庭養護促進協会

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター210号室  
HP <http://homepage2.nifty.com/fureai-osaka/> E-mail [fureai-osaka@nifty.com](mailto:fureai-osaka@nifty.com)

TEL 06(6762)5239 FAX 06(6762)8597

(社)家庭養護促進協会は昭和36年に設立された里親探しのための民間社会福祉団体です。  
週末里親制度は、大阪市は平成6年7月から、大阪府は平成21年2月から委託を受けている事業です。

# 週末里親 — Weekend family —

# Q & A

**Q** 似たことをするのでしょうか？

**A** 保護者と一緒に生活できない子どもたちに、家庭生活を経験させていただくことが週末里親の役割です。

児童福祉施設には、週末や長期休暇の時に保護者の元に帰宅できない子どもたちがいます。そうした子どもたちを対象に、週末やお盆、正月の間に、ご家庭と一緒に過ごしていただくのが週末里親です。限られた時間ですから無理をせず、肩の凝らない「ほどよい距離と関係」を保ち、長く続けていただけることが望ましいのです。

**Q** 施設の子どもたちに、家庭の経験が必要なのはなぜですか？

**A** 子どもの成長・自立には家庭生活を体験することがとても大切です。

施設では集団生活が基本となるため、一人ひとりの子どもの個性に応じた生活を保障するのは容易ではありません。家庭では当たり前の食事のありようや家庭の団らん、お手伝い、買い物などの経験が乏しくなりがちです。子どもたちが成長し、将来自立するためには、こうした家庭での経験がとても貴重なものなのです。また、子どもにとって、自分に深い関心を寄せてくれる人との関係が、親と離れて暮らすさびしさを和らげ、精神的な安定をもたらすことにもつながります。施設生活で不足するところを補い、子どもたちの成長と自立を応援するためとお考えください。

**Q** 似た子どもが里親を必要としていますか？

**A** 18歳までの子どもで、事情も様々です。

入所後に保護者と連絡が取れなくなったり、保護者が長期入院中であったり、一緒に暮らせる環境になかったり、さまざまな事情を持つ子どもたちです。その中には健康上の配慮が必要であったり、発達にさまざまな課題を持っている子どももいます。また、施設退所前の1~2年間、生活体験の幅を広げるため希望する場合があります。

**Q** 手続きの方法を教えてください。

**A** 家庭養護促進協会を通じて行っています。

週末里親の申込みの相談、受付、面接、調査、手当の支払いなど事業の具体的な運営を、大阪市・大阪府から委託されて、家庭養護促進協会が行っています。協会での説明を受けていただくことが最初のステップとなります。週末里親を引き受けるかどうかは、ご家族の問題ですから、全員でよく話し合って合意を得てください。お申し込みの後、協会から家庭訪問をさせていただき、家族全員の方と面談し、週末里親を引き受けていただく際の注意点などを説明いたします。

※週末里親制度では、1日1500円の謝礼、1回1000円の交通費をお支払いし、活動時に生じた事故に関しては賠償責任保険で対応します。

## 子どもをわが家に迎えて

### ▶ 6歳男児の里母

けんた君が来てしばらくは、冷蔵庫を開けたり閉めたり、家中を探索したりでちょっとびっくりしました。今はずいぶん落ち着いて、私たちの言うことを一生懸命聞こうとしてくれます。息子や娘はもう親離れしていますが、けんた君が来てくれるので、一緒に遊園地に行ったり、近くの公園でボール遊びや虫取りをしたり、夫婦でもう一度子育ての楽しさを経験させてもらっています。月に1度か2度の関係ですが、長い目で、この子の成長を見守っていきたいと思っています。

### ▶ 中3女兒の里親

あやかちゃんがうちに来たときには、その日の献立を一緒に考え、買い物に出かけます。そして、一緒に料理を作ります。初めは包丁を持つ手が危なっかしくハラハラしましたが、今では器用に使えるようになり、自分から「夕食を作ろう」と言うほどです。年頃ですから、「服を見に行きたい」と言うこともあり、一緒にバーゲンセールに行くこともあるんですよ。これから先の自立のことを考えると、上手に生活していく術を身につけて欲しいと願っています。それから、あやかちゃんには実のお母さんがいるのですが、とても病弱らしく本人も心配しています。お母さんとの関係がどうなるのか気になりますが、一緒に考えてやりたいと思っています。